

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年4月28日

確定日 平成22年5月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779101795		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家淀川		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪市淀川区十三元今里1-9-6		
自己評価作成日	平成22年4月1日	評価結果市町村受理日	平成22年5月18日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do</a>
情報提供票を活用する場合	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号
訪問調査日	平成22年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>笑顔の絶えない家庭的で静かに時間が流れる生活空間を作れるように一人ひとりの個性と主体性を尊重し、さらに地域社会との交流をもちながら地域社会の一員として生活できるように努めています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは住宅地の中にあり、近くには商店街や樹木の多い広い公園があり、入居者が散歩をしたり住民との交流をしたりできる場所となっている。職員は日常生活(料理、洗濯等)や行事、カラオケ、レクリエーションを通じて楽しみを共有し、共に暮らす者として入居者に敬意を払い、人格を尊重したサービスに心がけ、共感し支え合う関係づくりに努めている。職員同士の話し合いの機会が持ちやすい環境であり、チームワークも良く、入居者の変化にはすぐに気付き対応している。ターミナルケアを実施しており、実際に看取りの経験もしている。看取りは職員への精神的負担が大きいが、最期まで入居者に寄り添うことで、生きることや老いることの意味を肌で学んでいる。家族とのコミュニケーションを大事にしている、家族の訪問も頻繁にあり、意見を伝えたり相談しやすい環境づくりに努めている。管理者は、地域との関わりが思うようにできていない事に対して更なる取り組みの必要性を強く感じており、今後は地域に対し、認知症についての理解が浸透するよう取り組んでいきたいと考えている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
<b>理念に基づく運営</b>						
1	1	<b>理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を運営規定に掲げ地域の一員として地域に溶け込んだ事業所となるよう努めています。	入居者第一主義を基本理念として掲げている。理念について日常的に話し合うことはないが、日々のケアの場で、問題や疑問が生じた場合は、その都度、入居者を大切にする意識は伝えられている。	職員一人ひとりが理念の基本的な考えや意味等を理解したうえで、共有することの意義を話し合う事も重要であり、理念の意識づけやよりよいケアの実践が期待される。	
2	2	<b>事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日用品の買い物は近くの商店街を利用したり、行事の際には地域のお店でお弁当を頼んだりして事業所自体が地域との交流を図るようにしています。	町内会に加入しているが、回覧板は回ってこないため、地域の催事情報がない。日用品の買い物やイベント時の弁当は、近隣商店街等を利用したり、ボランティアの訪問はあるが、ホームとして地域との関わりが薄く、交流までには至っていない。	地域との関係づくりの必要性は常に感じていることから、日々の外出等、身近なところから少しずつ交流の幅を広げ、地域との相互協力や連携の基盤をつくり、支え合える関係づくりに期待したい。	
3		<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様の知り合いの方や、地域の在宅介護をされている方などで認知症の対応などに悩んでおられる方の話を聞き、事業所での成功例や失敗談などの話をさせて頂いています。			
4	3	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、生活の様子、現状、行事報告などを行っています。地域包括支援センターの職員、地域住民、家族様から様々な意見やアドバイス、要望を頂きそれを取り入れながらサービスの向上に努めています。	2カ月に1回確実に開催されている。家族の参加もあり、行事の報告やターミナルなどの話し合いが行われている。町内会の清掃への参加等、働きかけをしているが実現には至っていない。今後もメンバーからアドバイスや協力を得ながら地域との交流を深めていきたいと考えている。		
5	4	<b>市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは日頃から連絡をとり、ケアサービスの状況等を報告してアドバイスをもらっている。また困ったことやわからないことはこちらから質問して教えてもらっています。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員が参加しており、関わりはあるが、市や区など行政へ行き来する機会や情報交換等の関係づくりは積極的には行われていない。	行政との関わりを持つことで、現場の実情を知ってもらい、実態を共有しながら、課題について共に取り組んでいくことが大切である。いつでも相談できる関係づくりや、サービスの質の向上にむけた取り組みに期待したい。	
6	5	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束について具体的な行為の理解を深めるようにしている。居室、エレベーターなどは鍵をかけずに自由に生活してもらえが玄関については安全確保のため施錠しています。日中だけでも玄関の鍵をかけず自由に出入り出来る様に改善していきたいと思っています。	カンファレンスを通じて身体拘束の内容と弊害を認識するように努めている。また、言葉の暴力は精神的に苦痛を与え、人としての尊厳を侵すとして絶対に許されないと職員に伝えている。やむを得ず拘束に値する行為が必要な場合は、家族と相談のうえ、カンファレンスや申し送り等で話し合い、状態を確認し、慢性化しないように定期的に見直しをするようにしている。玄関の鍵は施錠しているが、各フロアの施錠は行っていない。		
7		<b>虐待防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳の維持に努めています。社内外の研修に参加し、区や市の介護保険課からきたパンフレットなど全職員に配布して虐待について理解を深めるようにしている。また職員同士で気になる事があればカンファレンス等で話し合いの機会をもつようにしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は利用されている方が2名いらっしゃいます。成年後見制度についてわからないことは地域包括センターの職員さんにおしえてもらったり市の職員さんに質問したりして本人様にとって何が必要かを考え活用出来る様支援しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ホームの理念、運営方針、金銭面などについて十分に説明し納得いただけるまで時間をかけています。また質問や不安なことなどを尋ねてわかりやすく理解いただけるよう説明するようにしています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が日常生活の中で言葉にされた意見、不満苦情等に対しては聞き漏らさないように努めるとともに、家族様が面会等にこられた際にもこちらから意見をお伺いしてその内容を職員間で共有してカンファレンスや朝の申し送り等で話し合い改善方法を検討して運営に反映させている。	家族の来訪時には管理者が対応し、入居者の日常の報告をしたり、家族の意見や要望を聞いている。入居者の体調に変化がみられた時は、その都度連絡をしており、家族からは「安心」と評価されている。また、家族アンケートでは感謝の気持ちのほか、厳しい意見もあったが、家族の思いを真摯に受け止め、今後の運営に反映させたいと取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや月1回管理者を含めたカンファレンスを実施して意見交換しています。また職員の意見を聞けるような環境づくりを心がけるとともに日々のコミュニケーションの中でも意見を聞くようにしています。聞いた意見について現場で解決できないことは上司に報告し、協力を得ながら改善できるようにしています。	月1回のカンファレンスを開催し、職員一人ひとりが意見や提案を話せる場を設けている。職員からも積極的に意見や提案が出されており、出された意見については、内容により管理者が判断したり、会社の上層部に向けあい討議するなど解決できるよう取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2回の人事考課があり、職員個々の努力や実績を把握し給与に反映できるような仕組みを作っています。またほめカードを活用してお互いのいいところをみつけ各自がやりがいを持ち楽しく仕事出来る環境を作れるよう取り組みを行っています。		
13		職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員はすべて本社で2日間の研修を受けたあと業務に従事しています。また会社内では定期的に研修が実施されています。社外の研修についても勤務時間内で参加できるよう勤務調整を行い、研修費については会社が負担しているものもあります。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淀川区グループホーム連絡会に参加して他の施設と情報交換しネットワークを広げています。また会社のほかのグループホームに見学に行ったり、研修にいらったりすることで相互のいいところ悪いところに気付きサービスの質の向上に役立っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には家族だけでなく必ず本人と面談して困っていること、不安なこと、要望等よく聞くようにしています。入居後も十分にコミュニケーションをはかり、会話の中でも不安や悩みを理解するように努めています。また言葉だけでなく態度や様子からも類推して本人の求めていることを受け止められるように努力しています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時から十分に時間をかけて家族が困っていること、求めていることを聞くようにしています。また入居後の生活などについても十分に説明して不安なことなどについては過去の事例などを取り上げながら納得いただけるように説明しています。		
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは本人と家族が必要としている支援が何であるか見極め、希望に沿った援助が出来るか検討しています。グループホームを利用しながらできることはホーム内で支援し、グループホームでの入居継続が最善でないと判断した場合には他のサービスを紹介するようにしています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬しその方らしさを見失わないように支援し信頼される職員になるよう努めています。また寄り添うことを大切に、ともに喜び悲しむ共感者としての意識をしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームではご利用者、家族、職員が協力して本人の生活を支えていきたいということを見学時から伝え、契約時にもお願いしています。面会時にはご利用者の生活状況を説明し行事やレクリエーションにも参加していただいています。		
20	8	馴染みの人や場の関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に家族、友人、など何時でも面会に来ていただけるようお願いしています。本人が以前住んでおられた近所の方が来られることもあります。以前なじみだった十三の商店街に散歩の途中によったりしています。	家族以外の入居者の馴染みの人や場所については、地元から入居された方を近所の方が訪問してくれることはあるが、本人の要望も出てこないことから多くの入居者は関係が希薄になっている。	近所の喫茶店など、新しい関係もできており、生活意欲を高めることで、本人の人間関係や社会との関係が見えてくると考えられる。本人の馴染みの人や場所など新たな発見に繋がることを期待したい。
21		利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの様子をなどから、その方の居場所を確保してご利用者様同士のかかわりがスムーズにいくようにしています。また日々の生活のなかで利用者同士の関係をみながら食事時の席や外出の組み合わせなどには配慮しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入院、他施設入所などの相談にのっています。また継続的なかかわりが必要なご利用者や家族に対しては付き合いを大切にして継続的に関わっています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、介護職員と十分に話し合いお一人お一人の意向については十分に聞くよう努めています。本人の意向を伺うことが困難な場合にも、表情を読み取ったり様子などから本人本位に検討しています。	入居時に本人の希望や意向の確認ができない状況が多くあり、家族から聞いたり、その時の状況から判断し、必要なサービス内容を検討している。また、毎日の生活の中で観察（会話、行動、表情）した事をもとにカンファレンスで話し合い、情報を共有し本人の意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話を聞ける場合には本人とゆっくり話す機会を多く持ちこれまでの暮らしを把握するようにしています。また本人だけでなく家族や在宅生活の時の担当ケアマネージャーとも連絡を取り、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活や様子を通じて出来ること、できないことや好きなこと、得意なことなどを見分けながら健康状態、気分などを含めて総合的に現状を把握するようにしています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を通じて本人の希望や意向を把握し、本人、家族、介護職員でカンファレンスをもつて意見や要望を反映させた介護計画を作成して実践しています。またモニタリングを実施し現状に即した介護計画を作成するように努めています。	入居者の日々の状態を申し送りで情報を共有し、全職員が入居者一人ひとりの状況を把握するよう取り組んでいる。介護計画は、設定された期間に捕らわれず、入居者の状態や本人、家族の要望の変化には関係者と話し合い、現状に即して見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子、気づき、これまでの暮らしの様子などケアのなかで得た情報を個別の記録に記入して、申送り、カンファレンスにおいて職員間で情報を共有しています。その上で定期的にモニタリングを行い介護サービス計画の見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携での訪問看護、介護タクシー、福祉用具のレンタルの相談、通院時の支援など多岐にわたるサービスの紹介、柔軟な対応をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練は消防署の協力を得て実施しています。ボランティアの方に来ていただき、手芸などのレクリエーションを企画したり、踊りなどの催しを実施しています。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族から今までのかかりつけ医との関係をよく伺い、今までのかかりつけ医との関係を継続する事を希望された場合にはそのように対応しています。またグループホームでも医療機関と連携し24時間の医療連携がとれる往診医が月に2回往診に来られています。	入居時に本人や家族に提携医(内科・精神科)の説明をしている。入居前のかかりつけ医に継続して受診している入居者もいる。月2回、定期的に提携医による往診があり、緊急時にもすぐに対応してくれるので、入居者や家族の安心に繋がっている。訪問歯科も月2回あり、口腔ケアが実施されている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	ご利用者の体調の変化や急変時には看護師に相談してアドバイスをもらい対応しています。職員はご利用者の医療面、健康面について気軽に相談でき、適切な体位が取れるようにアドバイスをもらっています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は本人に面会したり家族と連絡を取りあったりして早期に退院してもらえるように支援しています。また病院関係者にも連絡をとり、情報交換や相談をして関係作りを行っています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に事業所の出来ることできないことを説明しています。また終末期の方針についても話し合いを行っています。ご利用者の変化に応じてその都度本人、家族、職員、かかりつけ医と話し合いの機会を持ち、終末期のあり方についての方向性を決めています。本人、家族の意向を一番大事にしています。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、入居者の状態に変化がある毎に随時、意思を確認しながら取り組んでいる。看護師が勤務して、すぐに相談できる環境であり、提携医も24時間対応可能で連携を密にとっていることから、入居者はもちろんのこと、ケアをする職員にとっても心強い。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期の対応についてはカンファレンスなどで定期的に全職員に説明し実践出来る様指導しています。また救急対応等についてはわかりやすいところに手順を表示しています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと消防計画を作成し定期的に消防訓練を行っています。災害時には地域の人々の協力を得るよう自治会に加入して交流を持つようになっています。	昨年は5月と12月に防災訓練を消防署の指導のもと実施した。日中を想定し入居者も実際に訓練に参加した。職員は消火器の使い方を学んだり、避難経路の確認を行っている。	夜間を想定した訓練についても期待したい。また、地域への協力や働きかけと共に、災害時に備えて非常用食料や飲料、物品等についても整備されることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として人格を尊重し、尊厳のある対応を心がけています。また記録の保管や個人情報にも十分注意して保管庫は施錠しています。言葉のかけ方や対応についてはカンファレンスや朝の申し送りなどで話し合いお互いに注意しあっています。	入居者に合わせて、くだけたり気をつかったりと言葉かけを変えているが、「親しき仲にも礼儀あり」を念頭に置き、一人ひとりの尊厳を守っている。言動については、職員が互いに注意し合い、カンファレンス等で再度確認し、入居者に不快な思いをさせないように努めている。トイレ誘導の際には、入居者を思いやり、さりげなくエスコートしている職員の姿が見られた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の体調の変化や急変時には看護師に相談してアドバイスをもらい対応しています。職員はご利用者の医療面、健康面について気軽に相談でき、適切な体欧が取れるようにアドバイスをもらっています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者に寄り添うケアを心がけコミュニケーションをとるようにしています。またご自分の意見を言葉で表現できないご利用者には表情や様子で思いや希望を察するようにしていくとともに、家族とのコミュニケーションを深めその方らしい生活をサポート出来る様にしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみが出来た様その方にあった援助をしています。また月に1回の訪問理容を活用してカット、顔そりなどをしてもらっています。ご家族の協力を得ながら本人の望む店に行っている人もいます。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングの横にある台所で毎日食事を作り、煮物の匂いや包丁の音など五感で感じていただけようようにしています。簡単な皮むきやもやしの根取りなどを手伝ってもらったり、食事後の下膳、洗い物、テーブル拭きなどご利用者と一緒に行っています。	献立は配食業者の作成で、栄養のバランス、カロリー等必要量が確保されている。調理や味付けは職員が工夫している。自分で食べることを大切に、一口大、刻み、ミキサー等食事形態や盛り付け量の調節を一人ひとりに合わせて提供している。入居者には本人のできることを行ってもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と3時にはお茶の時間を設け水分量が1日を通じて確保出来るように支援しています。水分摂取量が少ないご利用者には本人の嗜好にあった飲み物を提供することや、時間にとらわれず何時でも飲んでいただける環境を作るようにしています。食事については栄養士が立てた献立をもとに栄養のバランスのとれた献立を提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行っています。口の中の汚れがひどい方は定期的に歯科衛生士さんに口腔ケアを行ってもらっています。歯科医、歯科衛生士さんに口腔内の清潔保持についてアドバイスをもらい本人様が出来るところはしていただき出来ないところを助けるように致します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄をしていただくよう排泄のリズムをつかみトイレ誘導するようにしています。またおひとりおひとりの様子から排泄のサインを見逃さず、さりげなくトイレの声かけ、誘導を行うように心がけています。</p>	<p>排泄チェック表を確認しながら、個々の排泄パターンに応じた個別の支援に取り組んでいる。できるだけトイレで排泄できるよう支援しており、歩行力の弱い方はつかまり立ちをできるようにサポートしたり、布パンツの着用を目標に取り組んでいる。取り組みの結果、オムツからリハビリパンツ、そして布パンツへと移行した例もある。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防のため、水分量、食事量、食事の内容等に注意し、また散歩など適度な運動をしてもらうよう心がけています。排便チェックは必ず行い便秘にならないよう気をつけています。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の希望やタイミングに合わせて楽しく入浴していただけるように心がけています。入浴があまりお好きでない方に対しても言葉かけを工夫して気持ちよく入浴していただけるようにしています。</p>	<p>入居者が入りたい時に入浴できるよう配慮している。週に1回の方もあれば殆ど毎日入られる方もある。時間も本人の希望にそって支援しており、湯は一人ひとり張り替えている。恐怖、羞恥心のある方には負担のないように、昔の話をしたりして気持ちを和らげ入浴できるよう工夫している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>居室は毎日掃除、換気して定期的にシーツ交換、布団干しなども行い清潔保持に努めています。リビングにはソファを置いて、いつでも気持ちよく休息できるようにしています。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服薬の変更があったときには朝の申し送りで報告するとともにノートにも記入して情報の共有をしています。副作用などについても十分理解して服薬による症状、体調、様子などに注意しています。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴を把握して、カラオケやレクリエーションなど楽しく日々を過ごしてもらえるよう支援しています。洗濯物干し、たたみ、新聞を取りにいく、食事の準備の手伝いなどの役割を負担にならない範囲で持ってもらい、張りのある1日を過ごしてもらえるよう支援しています。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>気候、天気の良い日には極力散歩、買い物と一緒に歩くようにしています。公園に行ったり近くの商店街に買い物に行ったりしています。またお花見の時期や、花火、お盆などご家族の協力を得ながら外出や外泊の機会を作ってもらっています。</p>	<p>天気が良い日には近所を散歩したり、喫茶店を利用することもある。行事として行う外出の他は、季節や状況によっては外出の機会が少ないのが現状である。面会時に家族の協力を得て外出されることもある。</p>	<p>ホームの近くには公園があり、地域の方や子ども達と触れあえる環境にある。五感刺激の機会を増やすためにも、入居者の希望に応じて日常的に外出ができるような体制づくりを期待したい。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>原則的には家族より預かり金として管理しているがおひとりおひとりの希望や能力に応じてご家族とも相談しながら可能な限りご本人に所持していただいています。おやつや洋服など一緒に散歩に行き実際に見て買ってもらえるよう支援し支援しています。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を自室においているご利用者に対しては操作方法などわからないことがあればその都度説明しています。携帯電話をお持ちでない方が家族などに電話をしたいといわれたときにはホームの電話を使ってもらっています。</p>			
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには七夕、クリスマス、お正月など季節感あるものを作り飾っています。音、におい、光などには常には配慮して、食事の準備の時には調理する音やにおいが自然とするようになど生活感を感じてもらえるようにしています。</p>	<p>リビングの照明は間接照明で光がやわらかくなっており、心地よい音楽が流れている。台所が対面式になっているので、職員は調理しながら入居者と会話をしたり見守りをする事ができる。入居者手作りのぬり絵や季節感のある作品が飾られている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには食卓だけでなく応接セットを置きソファでもくつろいでいただけるようにしています。またエレベーターで自由に他の階に行き思い思いの場所で過ごしていただけるようにしています。</p>			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に自宅で使用していたベット、たんすや仏壇など馴染みのものを持ってきていただくようお願いしています。自宅たたみの部屋でお布団で寝ておられた方については居室でも布団を敷いて寝ていただいています。</p>	<p>入居者が今まで使ってきた物や、思い出の多い鏡台、位牌、仏壇等を持ってきてもらい、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。ベットが慣れない方には畳を敷き、畳の段差につまずかないよう傾斜をつけることで段差を解消している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>過剰介護は避けて出来るだけ自立支援を心がけています。トイレにはピンクのマークをつけてわかりやすくしています。居室には表札をつけることで混乱を防ぐようにしています。</p>			

アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない</p>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない</p>
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない</p>

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
66	職員は活き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の3分の2くらいが
			職員の3分の1くらいが
			ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の3分の2くらいが
			利用者の3分の1くらいが
			ほとんどいない
68	職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族が
			家族の3分の2くらいが
			家族の3分の1くらいが
			ほとんどできていない

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年4月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779101795		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家淀川(3階)		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪市淀川区十三元今里1-9-6		
自己評価作成日	平成22年4月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do</a>
情報提供票を活用する場合	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号
訪問調査日	平成22年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔の絶えない家庭的で静かに時間が流れる生活空間を作れるように一人ひとりの個性と主体性を尊重し、さらに地域社会との交流をもちながら地域社会の一員として生活できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を運営規定に掲げ地域の一員として地域に溶け込んだ事業所となるよう努めています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日用品の買い物は近くの商店街を利用したり、行事の際には地域のお店でお弁当を頼んだりして事業所自体が地域との交流を図るようにしています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様の知り合いの方や、地域の在宅介護をされている方などで認知症の対応などに悩んでおられる方の話を聞き、事業所での成功例や失敗談などの話をさせて頂いています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、生活の様子、現状、行事報告などを行っています。地域包括支援センターの職員、地域住民、家族様から様々な意見やアドバイス、要望を頂きそれを取り入れながらサービスの向上に努めています。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは日頃から連絡をとり、ケアサービスの状況等を報告してアドバイスをもらっている。また困ったことやわからないことはこちらから質問して教えてもらっています。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束について具体的な行為の理解を深めるようにしている。居室、エレベーターなどは鍵をかけずに自由に生活してもらえが玄関については安全確保のため施錠しています。日中だけでも玄関の鍵をかけず自由に出入り出来る様に改善していきたいと思っています。		
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳の維持に努めています。社内外の研修に参加し、区や市の介護保険課からきたパンフレットなど全職員に配布して虐待について理解を深めるようにしている。また職員同士で気になる事があればカンファレンス等で話し合いの機会をもつようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は利用されている方が2名いらっしゃいます。成年後見制度についてわからないことは地域包括センターの職員さんにおしえてもらったり市の職員さんに質問したりして本人様にとって何が必要かを考え活用出来る様支援しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ホームの理念、運営方針、金銭面などについて十分に説明し納得いただけるまで時間をかけています。また質問や不安なことなどを尋ねてわかりやすく理解いただけるよう説明するようにしています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が日常生活の中で言葉にされた意見、不満苦情等に対しては聞き漏らさないように努めるとともに、家族様が面会等にこられた際にもこちらから意見をお伺いしてその内容を職員間で共有してカンファレンスや朝の申し送り等で話し合い改善方法を検討して運営に反映させている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや月1回管理者を含めたカンファレンスを実施して意見交換しています。また職員の意見を聞けるような環境づくりを心がけるとともに日々のコミュニケーションの中でも意見を聞くようにしています。聞いた意見について現場で解決できないことは上司に報告し、協力を得ながら改善できるようにしています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2回の人事考課があり、職員個々の努力や実績を把握し給与に反映できるような仕組みを作っています。またほめカードを活用してお互いのいいところをみつけ各自がやりがいを持ち楽しく仕事出来る環境を作れるよう取組みを行っています。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員はすべて本社で2日間の研修を受けたあと業務に従事しています。また会社内では定期的に研修が実施されています。社外の研修についても勤務時間内で参加できるよう勤務調整を行い、研修費については会社が負担しているものもあります。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	淀川区グループホーム連絡会に参加して他の施設と情報交換しネットワークを広げています。また会社のほかのグループホームに見学に行ったり、研修にいらったりすることで相互のいいところ悪いところに気付きサービスの質の向上に役立っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には家族だけでなく必ず本人と面談して困っていること、不安なこと、要望等よく聞くようにしています。入居後も十分にコミュニケーションをはかり、会話の中でも不安や悩みを理解するように努めています。また言葉だけでなく態度や様子からも類推して本人の求めていることを受け止められるように努力しています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時から十分に時間をかけて家族が困っていること、求めていることを聞くようにしています。また入居後の生活などについても十分に説明して不安なことなどについては過去の事例などを取り上げながら納得いただけるように説明しています。		
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは本人と家族が必要としている支援が何であるか見極め、希望に沿った援助が出来るか検討しています。グループホームを利用しながらできることはホーム内で支援し、グループホームでの入居継続が最善でないと判断した場合には他のサービスを紹介するようにしています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬しその方らしさを見失わないように支援し信頼される職員になるよう努めています。また寄り添うことを大切に、ともに喜び悲しむ共感者としての意識をしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームではご利用者、家族、職員が協力して本人の生活を支えていきたいということを見学時から伝え、契約時にもお願いしています。面会時にはご利用者の生活状況を説明し行事やレクリエーションにも参加していただいています。		
20	8	馴染みの人や場の関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に家族、友人、など何時でも面会に来ていただけるようお願いしています。本人が以前住んでおられた近所の方が来られることもあります。以前なじみだった十三の商店街に散歩の途中によったりしています。		
21		利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの様子をなどから、その方の居場所を確保してご利用者様同士のかかわりがスムーズにいくようにしています。また日々の生活のなかで利用者同士の関係をみながら食事時の席や外出の組み合わせなどには配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入院、他施設入所などの相談にのっています。また継続的なかかわりが必要なご利用者や家族に対しては付き合いを大切にして継続的に関わっています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、介護職員と十分に話し合いお一人お一人の意向については十分に聞くよう努めています。本人の意向を伺うことが困難な場合にも、表情を読み取ったり様子などから本人本位に検討しています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話を聞ける場合には本人とゆっくり話す機会を多く持ちこれまでの暮らしを把握するようにしています。また本人だけでなく家族や在宅生活の時の担当ケアマネージャーとも連絡を取り、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活や様子を通じて出来ること、できないことや好きなこと、得意なことなどを見分けながら健康状態、気分などを含めて総合的に現状を把握するようにしています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を通じて本人の希望や意向を把握し、本人、家族、介護職員でカンファレンスをもうけ意見や要望を反映させた介護計画を作成して実践しています。またモニタリングを実施し現状に即した介護計画を作成するように努めています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子、気づき、これまでの暮らしの様子などケアのなかで得た情報を個別の記録に記入して、申送り、カンファレンスにおいて職員間で情報を共有しています。その上で定期的にモニタリングを行い介護サービス計画の見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携での訪問看護、介護タクシー、福祉用具のレンタルの相談、通院時の支援など多岐にわたるサービスの紹介、柔軟な対応をしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練は消防署の協力を得て実施しています。ボランティアの方に来ていただき、手芸などのレクリエーションを企画したり、踊りなどの催しを実施しています。			
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族から今までのかかりつけ医との関係をよく伺い、今までのかかりつけ医との関係を継続する事を希望された場合にはそのように対応しています。またグループホームでも医療機関と連携し24時間の医療連携がとれる住診医が月に2回往診に来られています。			
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	ご利用者の体調の変化や急変時には看護師に相談してアドバイスをもらい対応しています。職員はご利用者の医療面、健康面について気軽に相談でき、適切な体位が取れるようにアドバイスをもらっています。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は本人に面会したり家族と連絡を取りあったりして早期に退院してもらえるように支援しています。また病院関係者にも連絡をとり、情報交換や相談をして関係作りを行っています。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に事業所の出来ることできないことを説明しています。また終末期の方針についても話し合いを行っています。ご利用者の変化に応じてその都度本人、家族、職員、かかりつけ医と話し合いの機会を持ち、終末期のあり方についての方向性を決めています。本人、家族の意向を一番大事にしています。			
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期の対応についてはカンファレンスなどで定期的に全職員に説明し実践出来る様指導しています。また救急対応等についてはわかりやすいところに手順を表示しています。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと消防計画を作成し定期的に消防訓練を行っています。災害時には地域の人々の協力を得るよう自治会に加入して交流を持つようになっています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として人格を尊重し、尊厳のある対応を心がけています。また記録の保管や個人情報にも十分注意して保管庫は施設しています。言葉のかけ方や対応についてはカンファレンスや朝の申し送りなどでも話し合いお互いに注意しあっています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の体調の変化や急変時には看護師に相談してアドバイスをもらい対応しています。職員はご利用者の医療面、健康面について気軽に相談でき、適切な体欧が取れるようにアドバイスをもらっています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者に寄り添うケアを心がけコミュニケーションをとるようにしています。またご自分の意見を言葉で表現できないご利用者には表情や様子で思いや希望を察するようにしていくとともに、家族とのコミュニケーションを深めその方らしい生活をサポート出来る様にしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみが出来た様その方にあった援助をしています。また月に1回の訪問内容を活用してカット、顔そりなどをしてもらっています。ご家族の協力を得ながら本人の望む店に行っている人もいます。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングの横にある台所で毎日食事を作り、煮物の匂いや包丁の音など五感で感じていただけるようにしています。簡単な皮むきやもやしの根取りなどを手伝ってもらったり、食事後の下膳、洗い物、テーブル拭きなどご利用者と一緒に行っています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と3時にはお茶の時間を設け水分量が1日を通じて確保出来るように支援しています。水分摂取量が少ないご利用者には本人の嗜好にあった飲み物を提供することや、時間にとらわれず何時でも飲んでいただける環境を作るようにしています。食事については栄養士が立てた献立をもとに栄養のバランスのとれた献立を提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行っています。口の中の汚れがひどい方は定期的に歯科衛生士さんに口腔ケアを行ってもらっています。歯科医、歯科衛生士さんに口腔内の清潔保持についてアドバイスをもらい本人様が出来るところはしていただき出来ないところを助けるように致します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄をしていただけるよう排泄のリズムをつかみトイレ誘導するようにしています。またおひとりおひとりの様子から排泄のサインを見逃さず、さりげなくトイレの声かけ、誘導を行うように心がけています。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防のため、水分量、食事量、食事の内容等に注意し、また散歩など適度な運動をしてもらうよう心がけています。排便チェックは必ず行い便秘にならないよう気をつけています。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の希望やタイミングに合わせて楽しく入浴していただけるように心がけています。入浴があまり好きでない方に対しても言葉かけを工夫して気持ちよく入浴していただけるようにしています。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>居室は毎日掃除、換気して定期的にシーツ交換、布団干しなども行い清潔保持に努めています。リビングにはソファを置いて、いつでも気持ちよく休息できるようにしています。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服薬の変更があったときには朝の申し送り報告するとともにノートにも記入して情報の共有をしています。副作用などについても十分理解して服薬による症状、体調、様子などに注意しています。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴を把握して、カラオケやレクリエーションなど楽しく日々を過ごしてもらえるよう支援しています。洗濯物干し、たたみ、新聞を取りにいく、食事の準備の手伝いなどの役割を負担にならない範囲で持ってもらい、張りのある1日を過ごしてもらえるよう支援しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>気候、天気の良い日には極力散歩、買い物と一緒に歩くようにしています。公園に行ったり近くの商店街に買い物に行ったりしています。またお花見の時期や、花火、お盆などご家族の協力を得ながら外出や外泊の機会を作ってもらっています。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>原則的には家族より預かり金として管理しているがおひとりおひとりの希望や能力に応じてご家族とも相談しながら可能な限りご本人に所持していただいています。おやつや洋服など一緒に散歩に行って実際に見て買ってもらえるよう支援し支援しています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を自室においているご利用者に対しては操作方法などわからないことがあればその都度説明しています。携帯電話をお持ちでない方が家族などに電話をしたいといわれたときにはホームの電話を使ってもらっています。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには七夕、クリスマス、お正月など季節感あるものを作り飾っています。音、におい、光などには常には配慮して、食事の準備の時には調理する音やにおいが自然とするようになど生活感を感じてもらえるようにしています。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには食卓だけでなく応接セットを置きソファでもくつろいでいただけるようにしています。またエレベーターで自由に他の階に行き思い思いの場所で過ごしていただけるようにしています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に自宅で使用していたベット、たんすや仏壇など馴染みのものを持ってきていただくようお願いしています。自宅でたたみの部屋でお布団で寝ておられた方については居室でも布団を敷いて寝ていただいています。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>過剰介護は避けて出来るだけ自立支援を心がけています。トイレにはピンクのマークをつけてわかりやすくしています。居室には表札をつけることで混乱を防ぐようにしています。</p>		



アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない</p>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない</p>
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない</p>

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
66	職員は活き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の3分の2くらいが
			職員の3分の1くらいが
			ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の3分の2くらいが
			利用者の3分の1くらいが
			ほとんどいない
68	職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族が
			家族の3分の2くらいが
			家族の3分の1くらいが
			ほとんどできていない